

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 児童生徒一人ひとりを大切にする教育をすすめ、保護者や地域から信頼される学校として、生活の場を広げ豊かにする教育活動を展開し、家庭、地域、関係諸機関と連携しながら自立と社会参加を可能にする力を養い、家庭、地域、関係諸機関との連携を強め、個に応じた進路実現を図る学校をめざす。
- 2 障がいの重度化、多様化に対応した障がい理解と高い専門性向上に基づく集団指導体制を確立するとともに、地域の特別支援教育の拠点としての役割をさらに推進する。

2 中期的目標

- 1 個に応じた指導の充実と専門性の向上
 - (1) 多様な障がい特性に応じた指導の充実と、知的障がい支援学校高等部としての専門性の向上
 - ア R-PDCA サイクルによる「個別の指導計画」の有効活用を図り、3年間を通じた教育計画の実施や、教育課程の見直しに努める。また、富田林支援学校版キャリアプランニングマトリックス表に基づき、自立活動の充実を図る。
 - イ「楽しい授業」「わかる授業」「ためになる授業」をめざして、ICTの活用や公開授業・研究授業などを通して、授業力の向上をめざす。
 - (2) 生徒が安全で安心して、生き生きと過ごせる集団づくり・学校づくりの推進
 - ア 自己肯定感を高める指導・支援の充実
 - イ 人権尊重の精神に基づいた安全安心な学校づくり
※上記アイの取組みについて、学部を超えた連携体制を構築する。
- 2 高等部卒業後の自立と社会参加に向けた進路指導の充実
 - ア「個別の教育支援計画・移行支援計画」を有効活用し、すべての生徒キャリア教育・職業教育の充実をめざす。
 - イ 関係機関と連携し、職場開拓、就労体験実習先企業の開拓を組織的に行い、校内外職業体験授業や就労体験実習等を推進する。
 - ウ 職業コースを軸として、就労を希望する生徒の支援システムの充実をめざす。
※進路研修の充実を図り、教員のキャリアカウンセリング能力を高め、生徒のキャリア支援の充実をめざす。
- 3 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり
 - (1) 地域支援・地域連携
 - ア 南河内地域の知的障がい支援学校高等部として、特別支援教育の専門性を発揮し、関係機関等と連携して地域の障がいのある生徒の支援を推進する。
※特別支援学校教員免許状取得率の向上や、校内研修内容の充実を図り、専門性の向上に努める。
 - イ 地域の高等学校との授業交流を通して、交流及び共同学習の推進に努める。
 - ウ 障がいのある生徒の理解推進に向けて、職業体験授業の提供企業、学校支援ボランティア、地域の小中学校や自治会、その他関係機関の協力を得て「開かれた学校づくり」に努める。
※広域避難場所に指定されているので、地域と協力して防災計画に取り組む。※校内体制を整備し、情報発信や相談支援体制の構築に努める。
 - (2) 学校での教育活動の活性化
 - ア 生徒が主体的に参加し、自己表現力や自己肯定感を高める教育活動の展開
 - イ 部活動や生徒会活動の活性化
- 4 働き方改革の推進
 - ・会議資料の事前配布と内容精選等を進め、授業研究、教材研究の時間を確保する。
 - ・各分掌業務についても見直しを進め、全体の業務量の減少と効率化に取り組む。
 - ・学部間の情報共有、意見交換をさらに進めることにより学部間の連携を広げ、学校全体の取組みがさらに円滑に進むように努める。
 - ・全校一斉退庁日の取組みをさらに進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】 《保護者》回収率 57.8% (H28 62.8%) 全体的には、肯定的回答率が昨年よりやや低くなったが、すべての項目で肯定的回答が 80%を超え、17 項目中 8 項目で 90%を超えている。否定的回答では 10%を超えたのは 1 項目のみ 10.6%であり、学校の教育活動に対して概ねご理解いただいていると考える。</p> <p>【個に応じた指導の充実】 日々の授業や学校行事（体育大会、学習発表会等）にすべての生徒が参加し、自分の思いや自己を表現でき、成功体験をもてるよう工夫した指導・支援に努めた結果、「学校へ行くことを楽しみにしている」87.1%、「楽しくいきいきと授業に取り組んでいる」85.9%、「行事は積極的に参加できるよう工夫されている」97.6%と高い満足度を示している。また、「学校は保護者の要望・相談に誠実に対応している」が 95.3%と高く、保護者との連携の状況もよいと考えられる。</p> <p>【生徒指導・進路指導の充実】 「進路情報の提供」は 94.1%で昨年（88.4%）を上回った。ニーズをリサーチしながら取り組んだ成果である。「いじめのない集団づくり」は 82.4%で昨年（85.8%）を下回った。日常的な生徒観察や連絡帳、定期的なアンケート等によって生徒の状況や人間関係を把握し、きめ細やかな指導・支援を続けていきたい。</p> <p>《教員》回収率 100% (H28 100%) すべての項目で肯定的回答が 70%を超え、否定的意見が 10%を超える項目はなかった。会議時間の縮減に継続して取り組み、授業準備の時間確保や教員間の円滑なコミュニケーションを図りながら信頼性を育み、同僚性を高めたい。</p>	<p>第 1 回 (6/20) ・高等部では『個に応じた進路実現を図る』ために、生徒に力をつける取組みと保護者にも進路を考えていただく取組みが、1 年生から系統的に一体となって展開されていることはとてもよい。 ・生徒どうし、また、先生と生徒が仲がよいのはよいこと。子どもの力を引き出すために必要である。</p> <p>第 2 回 (11/17) ・各学部の授業見学で子どもたちのいい顔を見ることができた。先生方も一生懸命だった。 ・発達課題別の授業がよかった。ICTもよく活用している。</p> <p>第 3 回 (1/30) ・就業・生活支援センター職員が来校し、学校見学と校内での生徒の様子を確認した。事前のこのような機会はありがたい。今後も継続してほしい。 ・PTA 進路委員会で行った進路見学会（全 4ヶ所）は保護者から好評であった。 ・いじめアンケートでご注意いただきたいのは、本人がそう感じていない場合があること。授業時間だけでなく休み時間、登下校時等も注意してみいく必要がある。 ・校則等については施設等としても対応しにくいところがあり、連携をお願いしたい。子どもの要望などを聞きながら理論的な説明も必要ではないか。 ・人権について単発ではない系統だった研修を行ってほしい。 ・PTA 活動については今までの経過を知らない保護者がいるのではないか。人とのつながりを大切にして進めていただければと思う。</p>

府立富田林支援学校（高等部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 個に応じた指導の充実と専門性の向上	<p>(1) キャリア教育の視点に立った個に応じた指導の充実 ア R-PDCAサイクルによる指導の充実と授業力の向上</p> <p>イ 個に応じた指導や支援の充実・専門性の向上</p> <p>(2) 生徒が安心して、生き生きと過ごせる集団づくり・学校づくりの推進 ア 自己肯定感を高める指導・支援の充実</p> <p>イ 人権尊重の精神に基づいた安全安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア・作成したキャリアプランニング・マトリックスと「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を連動させた授業づくりを進め、公開授業・研究授業等で実践発表・検討を行い、その成果を蓄積・共有化する。</p> <p>イ・多様な障がいの理解を深め、日々の指導に活かすために、外部講師による研修を実施し、専門性の向上を継続的に図るとともに、個に応じた指導・支援の充実をはかる。 外部講師・校内講師による研修を、夏季休業中を中心に10数回実施する。このうち、「生徒の見方がわかる連続講座」(内容：未定)については、5月・夏季休業中・9月に実施(回数未定)する。</p> <p>(2) ア・日々の授業や学校行事(体育大会や学習発表会等)で、生徒が主体的に参加し、自分の思いや自己を表現でき、成功体験がもてるよう工夫した支援・指導を行う。</p> <p>イ・日常的な生徒観察や連絡帳及び定期的なアンケート等により、生徒の状況や人間関係を把握し、体罰・いじめ・ハラスメントのない安心して過ごせる学校づくりに取り組む。 ・「ヒヤリ・ハット報告」をもとに、危機管理体制を整備・充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)「教育活動の評価」の肯定率(H28 88.5%)を90%以上とする。</p> <p>イ・学校教育自己診断「教職員の障がい理解(保護者)」の肯定率(H28 86.3%)を昨年以上とする。 学校教育自己診断「個別の支援計画・指導計画に基づく指導」の肯定率を昨年度以上とする。(H27 教職員 89.9% 保護者 90%) 特別支援学校教員免許状取得率(H28 60%)を昨年以上とする。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「子どもが楽しくいきいきと授業に取り組んでいる」の肯定率(H28 92.2%)を昨年以上とする。</p> <p>イ・学校教育自己診断「教職員の人権尊重の姿勢」の項目の肯定率を昨年度以上とする。(H28 87.3%) ・学校教育自己診断「いじめのない集団づくりへの取り組み」の肯定率を昨年度以上とする。(H28 87.3%)</p>	<p>ア・肯定率は74.4%と昨年を下回ったが、教職員のよりよい授業づくりの機運は高く、公開授業や研究授業およびその後の研究協議も活発である。保護者と連携しながら生徒の実態把握に努め、卒業後の進路実現に向けて個の成長を育む授業づくりを進めたい。(△)</p> <p>イ・研修は計画通りに実施できた。「障がい理解」の肯定率は83.5%(○) ・また、「計画に基づく指導」は教職員81.7%、保護者90.6%(○) ・特別支援学校教員免許状取得率は64%(○)</p> <p>※次年度も校内研修の計画的な実施や特別支援免許取得講習受講の呼び掛けなど、教職員の専門性のさらなる向上を図っていききたい。</p> <p>(2) ア・「授業への取組み」の肯定率は85.9% 「学校行事の工夫」は97.6%。生徒たちは授業、行事に前向きに参加し、他者と協力して成功体験を積み重ねている。(△)</p> <p>イ・「人権尊重の姿勢」の肯定率は87.1%、「いじめのない集団づくり」は82.4%。 10月に実施した『いじめに関するアンケート』でも該当事案はなかったが、取組みは継続する。(△) ・「ヒヤリ・ハット報告」の迅速な共有による注意喚起等、危機管理意識の持続に努めていきたい。(○)</p>
2 キャリア教育の充実	<p>高等部卒業後の自立と社会参加に向けた進路指導の充実</p> <p>ア 進路情報発信と研修の充実</p> <p>イ 就労先・職場体験実習先の開拓とアフターフォロー</p> <p>ウ 就労支援の充実</p>	<p>(2) ア・保護者・生徒にとって必要な情報は何かをリサーチしながら、冊子『進路のしおり』『障がい福祉サービスの現状』、「進路ニュース」の保護者配付などにより、進路情報を発信するとともに、福祉機関と連携した進路懇談会、外部講師による研修会や進路見学会を開催する。 ・研修等を通して、教員向けに福祉制度や障がい福祉施策全般の理解推進を充実させる</p> <p>イ・夏季休業日期間を利用し、進路指導部を中心に約100社を目途に連絡・訪問するなどして、新たな就労先や職場体験実習先の開拓に努める。なお、事前に企業開拓の教員研修を行う。 ・職場見学・体験にあたっては、保護者にも協力を求めるなど、進路に対する生徒・保護者の理解が深まるよう工夫する。 ・卒業生が学校に集まる機会(同窓会・成人を祝う会)を設けるとともに、企業や関連機関と連携しながらアフターフォローを充実させる。 ・施設生徒の卒業後の進路実現に向けて、関係施設との連携(相互研修や資料の共有化など)を深め、個々の生徒の進路指導の充実を努める。 ・就労及び卒業後のアフターフォローにおける連携を高めるため、ハローワーク及び就業・生活支援センター等の関係者との懇談会を実施するとともに、情報の交換・共有を一層深化させるため、日常からあらゆる機会をとらえてコミュニケーションを図る。</p> <p>ウ・定期的に職業コース(ライフキャリアコース)について考える委員会を開催し、授業内容や生徒募集等の現状の分析と課題解決のための方策を検討するとともに、外部講師を招いて、職業コースのみならず、就労をめざす生徒の職業意欲・スキルを高める講習・講演会を開催する。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断「適切な進路情報の提供」の教職員(H28 87.5%)、保護者(H28 88.4%)の肯定率を90%以上とする。</p> <p>イ・アポイントメントや訪問した事業所の数(100社以上をめざす) ・実施後の事業所並びに保護者の評価 ・同窓会の参加者数を200人とする。 ・障がい福祉施設との情報交換の回数並びにケース会議の回数(月1回以上実施する) ・就業・生活支援センターや市町村の自立支援協議会等関係機関との情報交換会の開催回数(年間通じて30回以上とする)</p> <p>ウ・外部講師による講習会・講演会の開催回数 マナー講座等各学期に1回以上実施。</p>	<p>(2) ア福祉懇談会(5月)、外部講師による研修会(11、2月)、進路見学会4回を実施。自己診断結果は教職員80.5% 保護者94.1%(○) ※外部講師による校内研修だけでなく、支援センター連絡会議や市町村自立支援協議会、福祉団体等が主催する研修会にも積極的に参加した。</p> <p>イ・今年度の就職希望生徒5人のうち3人はすでに見通しがあり、残り2人について32社を訪問した。引き続き、開拓に努める。(△) ・PTA 進路委員会主催で4回実施した。どれもたいへん好評であった。保護者ニーズをリサーチしながら継続する。(○) ・同窓会は4/22(土)卒業生130人、保護者100人参加。成人を祝う会は2/11(日)卒業生 人、保護者 人参加。今後もアフターフォローに努める。(○) ・障がい福祉施設との情報交換は月1回実施した。(○) ・関係機関との情報交換会は年間50回程度開催。効果的なアフターフォローにつながっている。頻回の情報交換は進路指導担当の後継人材育成にも役立っている。(○)</p> <p>ウ・外部講師による講習会・講演会は1,2学期に1回ずつ実施した。(△) ※現状分析と課題解決に向け検討を継続する。職場体験は前後期に分けて実施した。1か所で長く継続することで生徒のスキルを高められた。</p>

府立富田林支援学校（高等部）

<p>3 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 地域支援・地域連携 ア 地域の障がいのある生徒の支援の推進 イ 交流及び共同学習の推進 ウ 「開かれた学校づくり」 (2) 学校行事など学校での教育活動の活性化 ア 学校行事の活性化 イ 部活動の活性化</p>	<p>(1) ア・南河内圏域の知的障がい支援学校高等部としての専門性を発揮し、地域の障がいのある生徒を対象とする事業にも積極的に参画すること等を通して、地域の障がいのある生徒の支援の推進を図る。 イ・地域の高等学校との交流活動のさらなる推進と活動の改善。 ウ・障がいのある生徒の理解推進に向けて、関係企業、学校支援ボランティア、地域の小中学校や自治会など関係機関の協力を得て、「安全・安心」「開かれた学校づくり」に努める。 (2) ア・学校行事（体育大会や学習発表会等）で、生徒が主体的に参加し、自分の思いや自己を表現でき、成功体験がもてるよう工夫した支援・指導を行う。また、職場見学や実習の機会を確保するなど、豊かな社会体験を充実させる。 イ・部活動（サッカー部・駅伝部）・生徒会・読書など生徒の主体的な活動の更なる活性化</p>	<p>(1) ア・地域からの相談回数並びに地域で実施される事業への参画状況 （教育相談 10 件、研修会講師 5 回、地域協議会への参加 15 回以上とする） イ・事後アンケート（記述式）から見る肯定的回答の比率を 80%以上とする。 ウ・地域や関係機関と連携・協力した事業の開催数 秋季に運動会、冬季にコンサートの開催。 (2) ア・学校教育自己診断「学校行事は子どもが積極的に参加できるよう工夫されている」の肯定率（H28 90.9%）を昨年度以上とする。 職場見学・実習などの社会体験の実施回数拡大 イ・参加生徒数や練習回数 駅伝部・サッカー部の練習回数（試合を含む）を昨年度実績以上に（H28 駅伝部 32 日 サッカー部 80 日）子どもが読書する環境整備状況。</p>	<p>(1) ア 教育相談 10 件、研修会講師 5 回、地域協議会への参加 15 回以上の目標はどれも達成。新たに依頼を受けて高校 2 校の教員研修を 7 月に実施した。（○） イ 懐風館高校との交流（肯定的回答 100%）（○） ・9/9(土)10(日)文化祭に職業・家庭科作品展示 ・12/15(金)に 38 名が来校し授業交流等実施 ウ 学校支援ボランティアの活動は 43 回以上（図書室開放 34 日、環境整備 9 日、学校行事補助等） 秋のミニ運動会は雨天中止、チャリティコンサート 1/20(日)（○） (2) ア 97.6% 工夫した支援・指導の成果である。次年度以降も継続する。 また、夏休みに全員が職場体験実習を実施した。（必要に応じて教員付添い）（○） イ・サッカー部 13 人 80 日 FC 大阪サッカー教室を 2 回開催 ・駅伝部 13 人 32 日 ・読書環境の整備は学校支援ボランティアにより図書室開放を 34 日実施 次年度以降も継続する。（○） ※スポーツフェスタ各種目（10 月）、富田林市民マラソン 12/17（日）、ふれあいサッカー大会 12/9（土）の応援に教職員も参加。3 学期に南大阪駅伝大会、府立支援学校サッカー大会にも参加した。</p>
---------------------------------------	--	--	---	--